

るだけではなく、世界で地域がん登録のデータががん研究やがん対策にどのように活用されているかを知る貴重な機会ともなりますので多くの方の参加を期待しています。

## 第 16 回地域がん登録全国協議会総会研究会ならびに実務者研修会を終えて

児玉 和紀

財団法人放射線影響研究所

平成 19 年 9 月 6 日（木）から 7 日（金）にかけて、広島市南区民文化センターで第 16 回地域がん登録全国協議会総会研究会ならびに実務者研修会を開催し、おかげさまで無事終了しましたことをご報告申し上げます。

平成 19 年（2007 年）は昭和 32 年（1957 年）に広島市医師会腫瘍統計事業が開始されてから、ちょうど 50 周年に当たる年であり、記念すべき年に総会研究会を開催することができましたことを誠に名誉なことと考えています。広島市医師会も、本総会研究会に合わせて広島市医師会腫瘍統計事業 50 周年誌を作成され、参加者全員に配布いただきました。また、広島市医師会の長年の功績に対して、総会研究会の中で広島市から感謝状が贈呈されました。

総会研究会は「保健・医療と疫学研究における地域がん登録の役割」をテーマとし、大きくシンポジウム、会長講演、市民公開講座で構成しました。「地域がん登録の課題と今後の展望」をテーマとしたシンポジウムでは、祖父江友孝国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部長とともに座長をお務めいただいた迫井正深広島県福祉保健部長に「がん対策における地域がん登録」というタイトルで基調講演をいただき、その後、味木和喜子先生（国立がんセンター）から「地域がん登録の標準化の現状と課題」について、有田健一先生（広島県地域がん登録運営部会・広島県医師会）から「地域がん登録に果たす医師会の役割」について、田中英夫先生（大阪府立成人病センター、現・愛知県がんセンター）から「地域がん登録の法的現状と課題」について、井岡亜希子先生（大阪府立成

人病センター）から「がん対策推進計画策定における府県がん登録の役割」について、それぞれご講演いただきました。シンポジウムの最後には総合討論を行い、まさにテーマに即した内容について活発なご議論をいただきました。

会長講演では、次回の会長を務められる関根一郎長崎大学大学院医歯薬学総合研究科原研病理教授に座長の労をお取りいただき、「放射線影響研究における地域がん登録の貢献」をテーマに、地域がん登録なしには成し遂げられなかった放射線影響研究所の研究について、結果の概要をご紹介させていただきました。

昨年の山形に引き続いて開催した市民公開講座は、「50 周年を迎えた広島のがん登録—広島保健・医療に不可欠ながん登録について考える—」をテーマに行いました。座長を岡本直幸地域がん登録全国協議会理事長（神奈川県立がんセンター）と鎌田七男広島県地域がん登録運営部会長（原爆被爆者援護事業団）にお願いし、西信雄先生（放射線影響研究所広島研究所疫学部）から「広島におけるがん登録の取り組みと成果」について、桑原正雄先生（広島市医師会腫瘍統計委員会・広島市医師会）から「広島市医師会とがん登録—その 50 年の歩みと保健・医療への貢献」について、安井弥先生（広島県腫瘍登録実務委員会・広島大学大学院医歯薬学総合研究科分子病理学）から「がん登録資料はどのように活用されるのか—広島県でがんはふえているか?—」というタイトルで、片山博昭先生（放射線影響研究所情報技術部）から「がん登録では個人情報はこのように守られている」というタイトルで、それぞれご講演いただきました。またこの 4 人の演者の後に、中国新聞社の山内雅弥論説委員から、市民の立場からの追加発言をいただきました。最後に総合討論の時間が設けられましたが、がん患者である市民からは地域がん登録は身近なものではなく、さらに地域がん登録そのものの啓発活動や、市民への成果の還元が必要であることを痛感させられました。

9 月 6 日（木）に開催された実務者研修会は、柴田亜希子先生（山形県立がん・生活習慣病センター）、丸亀知美先生（国立がんセンター）、松尾恵太郎先生

(愛知県がんセンター)。井岡亜希子先生(大阪府立成人病センター)のご助言をいただきながら、杉山裕美先生(放射線影響研究所広島研究所疫学部)と中元一望氏(広島県医師会学術研修課)を中心に企画しました。地域がん登録の届出票を取りまとめる立場の各都道府県中央登録室の方々と、届出票を提出する立場の広島県内各医療機関の方々が、お互いの問題点を理解し合えるよう、高橋義雄氏(三原赤十字病院)から「診療情報からの地域がん登録の届出」、篠塚徳子氏(放射線影響研究所)から「広島県の中央登録室において問題のある届出票をどう処理していくか」、立山義朗先生(広島西医療センター)から「院内がん登録のない病院が、いかに地域がん登録届出を出していくか」、二宮基樹先生(広島市立広島市民病院)から「がん診療連携拠点病院からみた地域がん登録」というタイトルで、それぞれご説明をいただきました。

また9月8日(土)には、広島県地域がん登録システムおよびセキュリティの見学会を放射線影響研究所で開催し、60余名の方にお越しいただきました。

なお、今回は懇親会を総会研究会前日の実務者研修会の後に開催しました。会場は第3回の総会研究会を開催した広島医師会館とし、広島県医師会、広島市医師会のご厚意で健康教育室をお借りすることができました。当日はあいにく大雨となりテラスに出ただくことはできませんでしたが、会場内は参加者の熱気にあふれていました。

さて今回はじめての取り組みとして、これまでの学術的ポスターだけでなく、各都道府県と広島市に登録室紹介のポスター発表をお願いしました(抄録の提出も同時にお願いしましたので今回の抄録集は100ページを越えるものとなりました)。それぞれの登録室が、組織図やスタッフの紹介などを盛り込んだポスターを作成し、とてもバラエティに富んだ内容でした。例年総会研究会終了後の懇親会で行われていたポスター表彰を、今回は学術的ポスターのみならず登録室紹介ポスターについても行うこととし、総会研究会直後に杉山裕美先生の司会で表彰を行いました。栄えある登録室紹介ポスターの第1回最優秀賞に輝いたのは長

崎県でした。次回開催の長崎県からは参加者も多く、組織票が入った可能性も否定できませんが、内容もデザインも最優秀賞にふさわしいものでした。

いろいろと行き届かない点もあったかと思いますが、何とか成功させることができましたのも、皆様のご協力の賜物と感謝しております。どうもありがとうございました。

## 第17回地域がん登録全国協議会総会研究会のご案内

関根 一郎

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科

附属原爆後障害医療研究施設 放射線障害解析部門

腫瘍・診断病理学研究分野(原研病理)教授

第17回地域がん登録全国協議会総会研究会を担当させていただくことになりました長崎大学の関根です。私は2005年11月より「長崎県がん登録委員会」の委員長を務めておりますが、それまでも病理医で構成される「長崎腫瘍組織登録委員会」の委員として、病情報を収集し、診断を見直し、がん登録にデータを提供する立場にありました。来年度より、長年の悲願でありました「腫瘍組織登録」を「長崎県がん登録」の枠組みにいれ倫理的な対応もとりつつ、がん登録事業の精度をより高めていきたいと思っております。

さて、2006年6月16日、議員立法で「がん対策基本法」が成立しました。それを受けて政府が取りまとめた「がん対策推進基本計画」の中で、取り組むべき3つの課題の一つにがん登録が上げられたことは皆様のご記憶に新しいところかと思えます。こうした中、全国各地で「がん診療拠点病院」が整備され、「院内がん登録」が義務付けられるなど、がん登録を取り巻く環境も大きく変化してきているようです。このような状況を踏まえ、2008年の長崎における総会研究会は、「がん対策基本法施行後の現状と課題」というテーマで院内がん登録と地域がん登録の協調、がん登録の更なる精度向上を目指す一助となるような会を計画中です。詳細な内容に関してはこれから詰めていきたいと考えているところです。実りある会にすべく、